

寄せられたご意見と市の考え方

(下松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）についての
パブリックコメント)

●提出された意見合計 1件（1人）

※提出いただいたご意見は、趣旨を変えない範囲内で簡略化または文言等の調整をしているものがあります。

番号	頁	意見（要約）	市の考え方
1	-	<p>二点、申し上げさせていただくが、どちらも現段階において負荷のそれほど大きくない点について述べるに過ぎない点、お許しいただきたい。</p> <p>温暖化対策としての太陽光発電システム促進については、原則として反対する。少なくとも家屋や工場屋など『屋根の上』以外の大規模システムは環境負荷などの点から推奨されるべきではない。そもそもパネル製造元の多くは問題の多い国家・中華人民共和国の企業であり、それらを利することは間接的にでも温暖化をより促進してしまうことに他ならない。それよりも既存の太陽光発電システムに、ゆくゆくは国産化も期待される、より定置に特化した次世代型（ナトリウムイオン電池やウラニウム電池等）の蓄電システムを加えることで、エネルギーの地産地消を促し、二酸化炭素の排出を家庭レベルで極限できる体制を確立すべきである。とはいへ現状で効果</p>	<p>太陽光発電システム等の再生可能エネルギー発電設備の導入につきましては、大規模な開発（森林伐採など）を伴うものは推奨する予定はなく、環境負荷や生活環境にも配慮した上で建物の屋根等を中心導入を促進していきたいと考えております。ご意見を踏まえ、P58の将来像に、「地域との共生に配慮した再エネ導入」という表現を加えます。</p> <p>EV（電気自動車）につきましては、価格やステーションが不足しているなどの問題もあることから、当面はHV（ハイブリット車）などとの併用も視野に入れた取組が重要であると考えております。</p> <p>今後、支援に取り組む際には、いただいたご意見を参考に、製品やサービスのライフサイクルコスト全体の温室効果ガス排出量を可視化したカーボンフットプリント（CFP）なども考慮しつつ、地域経済の活性化にもつながる取組になるよう努めてまいります。</p>

のありそうな具体的施策としては、容量の大きい(たとえば1Kwh 以上)ポータブル電源の購入に対する補助金などの施策も、市民の意識を向上させる意味を含め、長い目で見れば確実に効果があるだろう。

運輸面では、EV 導入にも反対である。電源構成が二酸化炭素排出の根源となる火力が主力の我が国において、電気自動車がこの件においてなぜ話題に上るのか、そもそも理解に苦しむ。購入代金もガソリン車・HV 車よりも格段に高価であり、イメージ先行で安易に購入せざるを得ないイメージをつくってしまった場合、市民生活を圧迫するのは確実で、しかも二酸化炭素を排出しないのはその車の生涯(原料調達、製造、使用、廃棄)において『使用する』プロセスのみであり、そもそもその電源すら我が国では二酸化炭素を大量排出する電源でつくられたものが大半である以上、二酸化炭素削減などあり得ない。それよりも現在の、13 年超の車に課される加算税ぶんを補助することで、現在の所有車を大事に長く使っている市民に報い、車の廃棄にかかる二酸化炭素排出を減らす施策こそ、地味ではあっても効果的なのではないだろうか。

結論として申し上げる事があるとすれば、『二酸化炭素排出

また、現在、国においても、脱炭素に係る様々な議論がされていることから、国の動向を注視しながら取組を進めてまいります。

このたびは貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

		<p>『実質ゼロ』が錦の御旗になりすぎているような気がしてならない。今や『二酸化炭素ゼロ』ではダメなのだ。もはや『二酸化炭素マイナス』でなければこの星を、子供たちの未来を、救うことはできない。述べさせて戴いた点は取るに足らない微点に過ぎないが、『今』でなく、子供たちや孫たちの未来に。我がふるさと、未来の下松が素晴らしいところであることを、心から願っています。</p>	
--	--	--	--